

安全への提言

|||||



安全への決意

いわ
岩

もと
本

あきら
晃†

石油精製を行なう企業の環境安全に携わる者として、安全、特に製造現場での人身事故については大きな関心と強い思いと使命を感じている。

当然の事ながら、安全は昔から万人の願いである。事故の撲滅、安全第一等々のスローガンや方針は至る所で見ることができ、社会のあらゆる所で真剣な取り組みが為されている。しかし、事故撲滅は未だに成し得ない永遠の課題である。一例を取っても、交通事故やその負傷者の数、建設・製造現場に於ける労働災害の数などは、依然として毎年膨大な数に達しており報道もされている。少しでも事故が減りますように、自分の周囲で起きませんようにと願いつつ、我々はそういう社会環境で無意識に事故に慣れつつ活動している。

一方、労働災害ゼロを達成している優良な企業、事業所も世の中には多々あり心強いばかりである。その努力に敬意を表すると共に、やれば出来るという励みになっている。

安全の特効薬は無い。しかし、大切な要素はある。その一つに社長や事業所長などのトップの信念と決意が挙げられる。売上高や収益や効率等の事業所目標と同様に、それらを達成する条件としての明確な安全目標を据える事が重要である。安全が揺らいでしまうと、組織の至る処に歪と衰退が生ずる。安全の取り組みには、①設計や保全など設備的な対応、②システム・基準・要領など管理面での対応、③教育・意識など人による対応が揃っていることが重要であるが、これらを有機的且つ徹底して動かすドライビングフォースがトップの決意と行動である。

では、その目標つまり及第点をどの程度に設定するか。私はゼロであるべきと考える。「到底短期に達成できるわけではない。しかし、必ず辿り着くことが出来る、だから徹底して努力しよう」というトップの強い意志と実行力が周囲の人を突き動かす。前年比30%減などという程度の安全目標は一見高いハードルのように見えても、所詮事故を許容しているのと同じようなものである。

自社の例で恐縮であるが、誰も怪我をしない、怪我をさせないというスローガンを全社で掲げている。一見シンプルであるが、事業規模や操業リスクから見れば極めてチャレンジablな目標である。しかし、これは達成できる筈だとのトップの信念が全社に周知されている。従って、事故が発生してしまったら、防げる筈の事故が発生したと捉え、程度の大小に関わりなく徹底的に原因究明と対策実施を行なっている。従業員の事故も協力会社の事故も同じ事業所の問題として等しく対処する。更に、ヒヤリ・ハットは成功体験ではなく、たまたまその程度で済んだと考え、その事象が発生した原因やリスクも検討する。対策は上記の①、②、③全てに目を向け効果的に行なう。

安全活動のドライビングフォースとなる信念や決意は決して時の工場長の個人的なものではない。仕組みとしても、会社、事業所全体や個々の部署に至るまで、業績・実績を論議する会議では、必ず安全成績が第一番目の項目として詳細に報告され、議論される。このようにして必然的に、従業員始め協力会社の人たちにも安全が第一の優先事項であることが浸透して行く。

トップが動けば周囲の人は動く。人が動かなければ安全は維持向上できない。

人の安全、人による安全に焦点を当てた活動も同様の問題意識で装置の安全、信頼性などに広く目を向けるきっかけになり、装置の信頼性も上がって来ている。取り組みの根本は共通している。

一步工場を出れば周囲は不安全な状況が溢れている。自分の工場だけが安全であれば良いというわけではないが、少なくとも同じ工場内で共に働く仲間や協力会社の皆さんの安全は確保したい。誰も怪我をしない、怪我をさせないと心に誓いつつ気を巡らしている。

最後に、安全の追求には労力と時間とお金がかかるとの覚悟が必要である。しかし、安全活動を通じて、人の自覚や意識も高揚し、活発に行動し、事業所の健全な安全文化が醸成され、安定的な操業の基盤を作り出せると信じている。

† 東熱ゼネラル石油（株）：〒108-8005 東京都港区港南1-18-15 Wビル